

みらいCAN

ニュースレター

miraikan newsletter
2002 January No.006



[今月のトピックス]クリスマス・インスタレーション「ユニバースウォッチ 宇宙時計」
シンボルゾーンとGEO-COSMOSが、宇宙と地球の関係を示すインスタレーション空間になります。



Contents 2002 January No.6

- 01 展示紹介「ユニバースウォッチ 宇宙時計」
- Contents
- 02 11・12月開催のイベント 報告
- 04 ボランティアウィークイベント報告
- 06 スタッフ紹介
- 08 1・2月のイベント

ボランティア・ウィークイベント2001
ボランティア・サイエンストーク「静電気で遊ぼう」より

第6号

11・12月開催のイベント報告

未来を支える技術の話
宇宙へ夢を抱いたモノ作り「世界初のプラネタリウムの話」
ミノルタプラネタリウム(株) 高橋 保氏
(11月3日(土・祝)13:30~15:00~)

13時30分からと15時00分からの2回、5階展示場のすばるシアター横にて、ツァイス社が作った世界初の地球型プラネタリウムの紹介、恒星・惑星投影機や恒星原板の実物展示、世界初の宇宙型プラネタリウムの紹介など興味ある話をさせていただきました。講演終了後も、投影機の実物を前に質問が相次いだ。

(牧原正記)



展示の前で研究者に会う 東京大学 藤田博之先生
- マイクロマシンの世界 -
(11月17日(土)14:00~15:00)

シリーズ6回目となる「展示の前で研究者に会う!」が、11月17日(土)に開催されました。今回のテーマは、東京大学生産技術研究所の藤田博之先生による「マイクロマシンの世界」。車や携帯電話やプリンターなど、我々の身近なところに存在するミクロの技術について、時には参加者とともに顕微鏡をのぞきこみながら、大変わかりやすいお話を聞くことができました。今回の会場(3階展示場)は従来の会より少し狭いスペースではありましたが、30名の参加者は自然と先生を囲むように車座になり、熱心に耳を傾けていた姿が大変印象に残りました。

ダンディでないでたちの藤田先生ですが、マイクロマシンへの想いは熱く、その情熱がひしひしと伝わった会となりました。

(湯川博貴)



ハイビジョン映像で流星を数えよう
しし座流星群直前イベント
宇宙科学研究所 矢野創先生
(11月3日(土・祝)11:00~12:30)

11月19日未明が飛来ピークであろうと予測されている、しし座流星群。その直前イベントとして11月3日、ハイビジョン映像を用いて、しし座流星群に関する最新の研究内容を紹介します。日本科学未来館7階のイノベーションホールで開かれました。宇宙科学研究所助手であり、NASAの航空機ミッションに二度参加経験のある矢野創さんの解説に聞き入ったのは、家族連れを中心とした約100名の方々。しし座流星群についての科学的なデータ解析方法の解説や、最新の流星予測方法などについてのレクチャーの後は質疑応答が行われ、当日の観測方法について色々なアドバイスがありました。参加者はめったに見られない流星群への期待をふくらませていた様子です。(重信和広)



しし座流星群
プレスセンター・インターネット中継
(11月18日(日)18:00~19日(月)6:00)

国内の流星を観測するグループが集まって、日本しし座流星群観測ネットワーク連絡会(Associated Networks of Japanese Leonid Observers, 略称ANJLO)を作り、流星群極大当日、未来館にプレスセンターを設置して情報発信を行いました。NHKやMXTVをはじめプレスに対して、映像など各地から集まってくる情報を提供する場として大きな役割を果たしました。2002年5月には観測成果を発表する国際シンポジウムを未来館にて開く予定です。また、流星中継に実績があるライブ!レオニズ実行委員会に協力、番組を製作して、衛星回線によりオーストラリアなど各地から送られてくる映像とともにインターネットに流しました。ウェブへのアクセスは240万リクエスト、動画配信は、中継時間中は約17万(延べ)アクセス、最大同時アクセスは4500ストリーム(アクセス)でした。当初の予想を遥かに超えるもので、大きな反響がありました。実際にも日本の空で雨のように流星が流れ、これを機に自然そして科学に興味を持ってくれる人が増えることを望んでいます。(永井智哉)

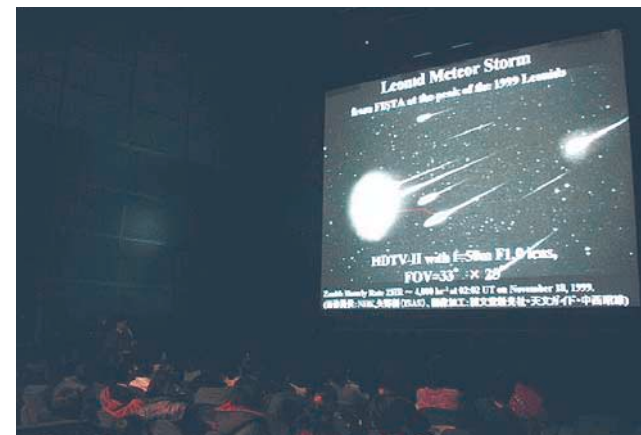


ハイビジョン映像で流星を数えよう
空撮ハイビジョン初公開!
宇宙科学研究所 矢野創先生
(12月1日(土)2日(日)14:00~15:00)

11月19日未明、日本で多くの流れ星を見ることができた「しし座流星群」の流星計測会が12月1・2日(土・日)日本科学未来館イノベーションホールで行われました。流星の研究者や流星観測を専門とするアマチュアの人たちによって、科学的な初期データとなる流星の数と明るさなどを測定することができ、今後の研究成果に役立つものと思われます。ゴールデンウィークには観測成果を発表する国際シンポジウムを未来館にて開く予定です。

14時からの一般向けの公開イベントでは、矢野創先生(文部科学省宇宙科学研究所)による解説を交え、大スクリーンにすばる望遠鏡のあるマウナケア山頂(ハワイ)や長野県野辺山で撮影されたしし座流星群の映像が映し出されました。実際に自分で見ることができた人もできなかった人も、次々にスクリーンに出現する流星を食い入るように見つめ、肉眼では見ることのできないほどの無数の流星が映し出されているハイビジョン映像に圧倒されていました。参加人数は1日:約100名、2日:130名以上と、立ち見が出るほど大盛況で、イベントの最後には「次にしし座流星群を見る機会がありますか?」「色が刻々と変化する流星を見ましたが、なぜ色がかわるのですか?」等の質問がありました。

(永井智哉・重信和広)



クリスマス Jazz コンサート
“Star Forest Night”報告
(12月14日(金))

クリスマスを目にした12月14日、日本科学未来館/MeSciのシンボルゾーンは星降る夜に散策しているような雰囲気になりました。クリスマスJAZZコンサート&サイエンストークの夕べです。ゆったりと楽しんでもらうため、いつもより開館時間を延長して夜8時まで行い、あわせて200人の来館者に、音楽とトークを楽しんでいただきました。

1ヶ月ほど前にしし座流星群の大出現があったばかりです。そこで、サイエンス・トークでは、まだ記憶に新しい流星の話を中心に宇宙が何処までわかってきたかについて、みさと天文台の尾久土台長と、天文学の研究者でもある未来館の永井智哉の二人が、流星の科学をわかりやすく解説しました。また、アートディレクションとデザインは未来館の島田卓也が担当し、会場に巡らした縦長の白いスクリーンに美しい星のスライドを映しだ

クリスマス・インスタレーション
ユニバースウォッチ 宇宙時計
(12月1日(土)~24日(月・祝))

12月、シンボルゾーンがクリスマスモードに模様替えされました。白いじゅうたんにクッションが置かれ、中央には、24台のコンピュータが宇宙時計・ユニバースウォッチを形成しました。

クリスマスには、もうひとつの意味があります。北半球では12月21日か22日頃、1年で最も昼が短い日・冬至が訪れます。それまで日に日に光が弱まり沈む時間も早くなっていた太陽は、冬至を境に息を吹き返したようにその力を取り戻し、日の入りの時刻も目に見えて遅くなっていきます。古代の人々は冬至を、全ての生命を育む太陽がエネルギーを取り戻し復活する日であると考え、冬至の直後12月25日を祝祭の日としたのです。このようにキリスト教が広まる以前から生命再生の祝祭日であった12月25日が、やがて救い主イエス・キリストの誕生と結びつけられ、クリスマスとして祝われるようになったと言われています。曆にしたがって昼の時間が長くなったり、短くなったりするのは、地球が太陽の周りを回っている軌道面=黄道面に対して地球の自転軸が垂直でないことが関係しています。冬至は、地球がすこし傾きながら1年かけて太陽の周りを回っていることの明かしてあるのです。

この宇宙時計・ユニバースウォッチでは、太陽系を巡る地球の現在の位置と、地球上のさまざまな場所のいまの映像が映しだされました。また白いじゅうたんにクッションが置かれた空間では、寝ころびながら、GEO-COSMOSを見上げることができました。楽しい家族連れやカップルあるいは、もの思いにふける人たちが、この癒しの空間を体験していました。

(牧原正記)



しました。このイベントを、“Star Forest Night(スター・フォレスト・ナイト)”と名付けたのは、会場があたかも星の林のように見えることにちなんでいます。しし座の夜の記憶が甦るような幻想的な映像と、星をテーマにしたジャズとトークの融合で、MeSciらしいクリスマスを目指しました。(境真理子)



2001年はボランティア国際年。
日本科学未来館は12月5日の国際ボランティアデーを含む一週間を「未来館ボランティアウィーク」と定め12月3日(月)～9日(日)にボランティアの自主企画による各種イベントを実施しました。

ボランティアウィーク

1 遺伝子組み換え食品を考える

学生ボランティアが中心となって、展示イベントを行いました。遺伝子組み換え技術の歴史と開発の現状やその具体例などについて、パネルや生きたショウジョウバエの展示、簡単な実験などを行いながら原点に戻って考えました。実験では多くの参加者があり、DNAのモヤモヤを目で見ることができました。早い時期からの下準備や打合せ、ボランティア同士の連携は素晴らしいものでした。詳しくは以下のHPをご覧ください。

<http://www.keddy.ne.jp/scitech/>

主なボランティア：藤田大悟、太田望斗、所舞子、川瀬悟、鴨居達明、北島静、林遵、小山田圭一、平野節、菅原剛彦、岩下恵子



2 美しい鉱物展 ～地球の細胞に触れる～

地質標本館(つくば市)や鉱物店(K.Cジョーンズ、万里鵬)の協力のもと、美しく不思議な鉱物に五感を使って触れることで、鉱物の魅力を多くの人々に伝えることができました。また、短い準備期間中、180通を超えるメールでのやりとりや打合せ会、鉱物についての下調べや配置の問題など様々なことを一から考えました。来館者の反応や声からボランティアの「鉱物～地球への想い」や来館者へ伝えたかったことが届いたことと思います。余ったおみやげ石は未来館職員にも大好評でした。

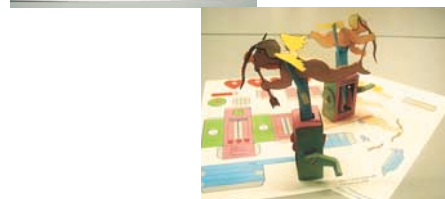
主なボランティア：齋藤伸朗、原田郁子、平井明、西川紀子、辰巳弘、篠村善徳、菅原剛彦、田中沙織、田嶋あさみ



3 工作教室

ユニバース・ウォッチの白のオブジェを背景にゆったりと親子や子供同士で工作を楽しんでいる姿が見受けられました。偏光シートを用いた「雨降り君」では、個々人が工夫をこらしオリジナル作品を作ることができました。工作の試作作りにも皆さん楽しく励んでくれました。家に持ち帰ったあと、「エンジェル」のからくりの原理や「月」の地形や偏光の原理に興味をもってもらえたら嬉しいです。

主なボランティア：田中友美子、浦野須磨子、片岡靖人、小原洪一 他多数



2001.12.3 9 イベント報告

4 衛星を捕らえよう

衛星を電波でとらえることに成功しました。7階のテラスから富士山を背景にモールス信号をしっかりと聞くことができました。夕方には肉眼で宇宙ステーションを見ることができた時、来館者と心がひとつになりました。様々な電磁波や通信の世界についてあらためて考えるきっかけになりました。

主なボランティア：中島昌一 他JAMSATの皆さん



5 ボランティア・サイエンストーク

個性あふれる様々なお話を聞くことができました。このようなサイエンストークを今後も継続して行えるよう考えています。スピーカーボランティアとタイトル：

- 田中友美子「デンジージャンプ～落ちる力と引き止める力～」
- 一色 節也「現在の技術に未来の技術も歴史の上に成り立っている」
- 小杉 睦裕「進化の延長としての科学・技術の進歩」
- 西川 利男「中国語・タイ語・エスペ란ト語・・・そして日本語とコンピュータ」
- 佐藤 皓一「陰陽五行から理学へ、そして自然科学へ」
- 前田 和哉「個別化医療への道～ゲノム情報から臨床へ～」
- 小島 幸一「人工臓器の発展からみた生体」
- 車田浩道・益田克行「静電気で遊ぼう」



6 懇親会

ボランティア110名に毛利館長やインタープリターの他、職員も加わり総勢160余名の大パーティーとなり楽しく有意義なひとときを過ごすことができました。沖村理事長の飛び入り参加もありました。短い時間ではありましたが、曜日を越えたボランティア間の交流を図ることができました。ウルトラクイズ「宇宙に行きたいか!」では、ボランティアなら知っているはずの未来館の基本的なことを出題しました。また、このイベントで頑張ったボランティアの方々へ、毛利館長から記念品贈呈がありました。

司会ボランティア：千葉謙吾、佐伯聡、浅野健治



7 映像撮影

ボランティアイベントの一部始終を映像研修を修了したボランティアが撮影インタビュー付きしてくれました。これから編集作業に入るわけですが、テロップやコメント・音楽などこれからどんな映像ができるか楽しみにお待ち下さい。

映像撮影・編集ボランティア：佐伯聡、前橋寛



菅原剛彦(ボランティア・「生命の科学と人間5F」担当)
 まさに「面白そう!」と毛利館長の講演会で、日本科学未来館のことを知った時から興味津々でした。それから、私は生命科学の分野の面白さを何とか伝えたい、また何かの役にたてればと思いボランティアを始めました。ところが、活動してみるといろいろ学ぶことがたくさんあって、今では未来館は自分が勉強するところになっています。活動のメインである展示の解説は、子供相手に楽しくさせてもらっていますが、たまに鋭い質問にドキッしたり、健康相談などなど、人と話すのもなかなか大変でやりがいがあります。また、未来館ではいろいろなイベントが開かれており、そちらに参加するのも魅力の一つです。「しし座流星群」では情報の発信源として、星降る夜を世界中へ中継しましたし、ボランティアウイークには「遺伝子組換え食品を考える」で美しい鉱物展のイベントをボランティアの力を合わせ、企画から開催までやり遂げました。いずれも沢山の方々から好評で、心に何かを残せたと思ううれしくなります。ボランティア同士の交流も活発で、いろいろな分野の詳しい話が飛び交い、いつも大変興味深いことばかりです。職員の方々も、新しいモノを創っていくというチャレンジ精神で頑張っているのので、未来館はとて素晴らしい雰囲気です。そんな所だから、これからのいろいろな夢が膨らんでいきます。私がなにより一番に感じることは「未来館は楽しい!」の一言につきまます。みなさんも目で見て触れて「一粒で2度おいしい!」そんな体験をしてみませんか?



増永多麻恵(アテンダント) 写真左
 小学校の頃から理科が嫌いで、科学にはほとんど興味がなかったのですが、将来自分が科学館で勤務するようになるとは思いませんでした。業務中、子ども達を見ているととても楽しそうで、自分が子供の頃に「みらいCAN」があれば理科嫌いも改善されたのでは.....と思います。
 最近は、科学に関するニュースにも耳を傾けるようになり、「みらいCAN」との出会いによって、自分も変化しているように感じています。

伊藤 忍(アテンダント) 写真右
 オープンから早半年が過ぎ、未来館から見る景色にも見慣れ、まもなく春を迎えようとしています。時には、失敗してへこむこともあります。少しずつ業務にも慣れてきた頃だと思っています。
 未来館でたくさんの人と出会うことで元気づけられたり、いろいろな発見があったりと私自身学ぶことが多い毎日です。その限られた貴重な時間をこれからも大切にしていきたいと思っています。



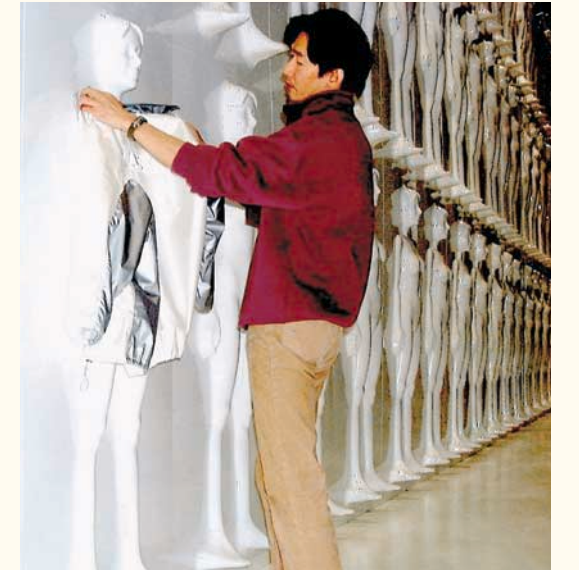
安藤知華(インタープリター・「情報科学技術と社会3F」担当)
 未来館には、日本全国、また海外からも様々な言語を話す方が来館され、そういう方々との出会いを私は大切にしています。
 Scienceにはアートや音楽と同じで国境がありません。その中の1つ、インターネットを支える技術も世界共通の言語(プロトコル)を使って実現されています。私は技術のしくみを紹介しながら、皆さんが使っている1台のコンピュータから“世界中のリソースにアクセスでき、世界中の人々につながっている”というスケールの大きなコンセプトを多くの方と共有できたらと思っています。



吉田大一郎
 (インタープリター・「地球環境とフロンティア5F」担当)
 未来館で働いて一番感動したのは、子供から「しんかい6500」のイラストをもらったことです。
 彼のするどい質問にいろいろ本を見せながら、しどろもどろ答えていたのですが、大変満足してくれたようです。やはりお客様の満足した笑顔が一番の原動力ですね。あなたも未来館で笑顔になりませんか?



森澤章彦(管理室:施設管理グループ)
 明けましておめでとうございます。昨年は皆さん変化に満ちたこの未来館で忙しく過ごされたことでしょう。僕が未来館に関わってちょうど1年が経ちますが、40年の人生で最も速く時の過ぎた年でした。写真は、クリスマスイヴの夜、ロボット・ミーム展を散歩していた時に「寒いわ」と声をかけられた時のものです。未来館は不思議な体験をできる空間なので、ここでの勤めを許された事に感謝しつつ、今年も刺激的な1年を味わおうと思います。



見上慶子(科学技術スペシャリスト・広報グループ)
 私は、よりたくさんの方に未来館を知っていただくために車内や駅構内、新聞や雑誌、その他様々な媒体に広告を載せたり、未来館のイベントを紹介してもらったり、いろいろな形でPRする仕事をしています。また、未来館や館長への取材の数も多いので、その対応もしています。これからも、未来館の活動やイベントなどいろいろな情報を発信していきたいと思しますので、みなさん、ぜひ未来館へお越し下さい!!



辰己 弘(ボランティア・「地球環境とフロンティア1F」担当)
 私は、気分転換によく空に浮かぶ雲を眺めます。ぼんやりと流れゆく雲を眺めているだけで、心が落ち着きます。羊のような積雲から、山盛りご飯の積乱雲。ご機嫌なめの乱層雲。山がまとった層雲。ロールパンのような層積雲。ぼんやり広がる高層雲。レンズのような高積雲。鳥の羽のような巻雲。絹のペールの巻層雲。いわしのウロコのような巻積雲。いろんな表情を見せてくれる雲たち。雲は時々刻々と変化し、2度と同じ形をとることはありません。そう、雲との出会いは、一期一会なのです。人と人との出会いも同じです。未来館でのいろいろな方との出会いを、これからも大切にしていきたいと思っています。いちご一円、.....だったら安くていいですね。お後がよろしいようで。(よろしくないですか? ^_^;)



- 1「ロボット・ミーム展」～ロボットは文化の遺伝子を運ぶか?～
12月1日(土)～2月11日(月・祝)
- 2「ロボット・ミーム展」連続トークセッション
セッション2「ロボットはミームの乗り物になるか?」
1月12日(土)17:00～19:00
- 3 ASIMO入社式
1月13日(日)11:00～12:00
- 4 シンポジウム「さわれる地球」
1月13日(日)14:00～16:00
- 5 レスキュー-ロボットシンポジウム2002
1月18日(金)11:00～
- 6「すばる望遠鏡の研究者と話そう」
布施哲治先生
1月26日(土)13:00～14:00
- 7「未来にたくす夢～ある解剖学者の見た世界」
養老孟司先生
1月26日(土)15:00～16:30
- 8「ロボット・ミーム展」連続トークセッション
セッション3「ロボットは人の未来を映す鏡」
1月26日(土)17:00～19:00
- 9 H-A ロケット試験機2号機打上げライブ中継
2月3日(日)以降
- 10 ROBO-ONE 第1回大会
～世界初!二足歩行ロボット格闘技大会～
2月2日(土)3日(日)
- 11「展示の前で研究者に会おう!」
地球に触ろう!～地球規模で移動する生き物たちの生態・クジラ～
竹村真一先生、大隅清治先生
2月2日(土)17:00～18:00
- 12 デジタルカメラ薄さへの挑戦
ミノルタ(株)広報宣伝部課長 東義彦氏
2月9日(土)13:30～、14:30～
- 13「展示の前で研究者に会おう!」
可能性を設計する～日本科学未来館の建物のしくみ
櫻井潔氏、山根格氏、吉野繁氏、吉村憲氏
2月16日(土)14:00～15:00
- 14 たのしい実験・工作教室
2月17日(日)10:30～16:30
- 15「すばる望遠鏡の研究者と話そう」布施哲治先生
2月23日(土)13:00～14:00



みらいCANニュースレター

第6号 2002年1月発行

発行人/毛利 衛

発行/科学技術振興事業団 日本科学未来館
〒135-0064 東京都江東区青海2丁目41番地
TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150

企画編集/日本科学未来館広報グループ
編集デザイン/有限会社WORDS

ホームページURL <http://www.miraikan.jst.go.jp/>

1月		実験工房
1 Tue.	休館日	1
2 Wed.	友の会 実験教室	レ □
3 Thu.	友の会 実験教室	レ □
4 Fri.		□
5 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 □
6 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 雷 □
7 Mon.		
8 Tue.	休館日	
9 Wed.		
10 Thu.		
11 Fri.		
12 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 □
	2「ロボット・ミーム展」連続トークセッション2	
13 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 □
	友の会 新春クイズラリー	
	3 ASIMO入社式	
	4 シンポジウム「さわれる地球」	
14 Mon.	友の会 新春クイズラリー	超 □
15 Tue.	休館日	
16 Wed.		
17 Thu.		
18 Fri.	5 レスキュー-ロボットシンポジウム2002	
19 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 雷 □
20 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 □
	友の会 新年会	
21 Mon.		
22 Tue.	休館日	
23 Wed.		
24 Thu.		
25 Fri.		
26 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 雷 □
	6「すばる望遠鏡の研究者と話そう」	
	7「未来にたくす夢～ある解剖学者の見た世界」	
	8「ロボット・ミーム展」連続トークセッション3	
27 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 □
28 Mon.		
29 Tue.	休館日	
30 Wed.		
31 Thu.		

2月		実験工房
1 Fri.		1 雷
2 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 □
	10 ROBO-ONE 第1回大会(～2/3)	
	11 展示の前で研究者に会おう!	
3 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 □
	友の会 見学バスハイク	
4 Mon.		
5 Tue.	休館日	
6 Wed.		
7 Thu.		
8 Fri.		
9 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 雷 □
	12 デジタルカメラ薄さへの挑戦	
10 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 雷 □
11 Mon.		超 □
12 Tue.	休館日	
13 Wed.		
14 Thu.		
15 Fri.		
16 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 雷 □
	13 展示の前で研究者に会おう!	
17 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 □
	14 たのしい実験・工作教室	
18 Mon.		
19 Tue.	休館日	
20 Wed.		
21 Thu.		
22 Fri.	インターネット電子顕微鏡	
23 Sat.	15「すばる望遠鏡の研究者と話そう」	超 □
	インターネット電子顕微鏡	
24 Sun.		超 雷 □
25 Mon.		
26 Tue.	休館日	
27 Wed.		
28 Thu.		

イベントの内容は変更することがあります。

実験工房 超:超伝導 雷:レーザー □:ロボットA